

## 臨床検討会

NO	月／日	主 題	発表者
1174	2024/ 5/29	治療成績報告<膵癌>	本間 祐樹
1175	2024/ 5/29	治療成績報告<肝細胞癌>	熊本 宜文
1176	2024/ 5/29	治療成績報告<良性胆道疾患>	高橋 智昭
1177	2024/ 6/ 5	治療成績報告<食道癌>	矢後 彰一
1178	2024/ 6/ 5	治療成績報告<胃癌>	佐藤 渉
1179	2024/ 6/ 5	治療成績報告<大腸癌>	小澤真由美
1180	2024/ 6/ 5	治療成績報告<乳癌>	山田 顕光
1181	2024/ 6/10	治療成績報告<転移性肝癌>	澤田 雄
1182	2024/ 6/10	治療成績報告<肝移植>	澤田 雄
1183	2024/ 6/10	治療成績報告<炎症性腸疾患>	木村 英明
1184	2024/ 6/10	治療成績報告<胆道癌>	松山 隆生

## Morbidity and Mortality

## No.1037 遠位胆管癌と結腸癌の重複多重癌に対し膵頭十二指腸切除術 + 結腸切除を行い複数の合併症で死亡した1例 (2024/3/7) 油座 築

75歳男性。遠位胆管癌（中部胆管癌）cT2aN0 Stage II、横行・上行・下行結腸癌（それぞれStage II、I、I）に対し根治切除を施行した。肝側胆管断端は陰性だったが、十二指腸側断端陽性のため膵頭十二指腸切除術を追加した。大腸癌には結腸右半切除 + 下行結腸部分切除 + 人工肛門造設術を行った。術後、high-output stomaが持続し、膵液瘻から腹腔内膿瘍も合併した。POD17に腹腔内出血に対し緊急血管内治療を実施、同日にCOVID-19を発症した。輸

血・補液による循環負荷で呼吸不全・心不全、敗血症性ショックをきたしPOD18に挿管された。真菌血症、CMV感染、ARDS、多臓器不全を経てPOD58に永眠した。

膵頭十二指腸切除術と結腸同時切除を行う場合、単独施行に比べ重症合併症のリスクが高く、血流障害や腫瘍因子などの不可避な理由がない限り、分割手術を検討することが望ましいと考えられた。

## No.1038 菌状息肉腫症合併胃癌に対し胃全摘を施行後に誤嚥性肺炎を来たした1例

(2024/12/19) 小坂 隆司

症例は81歳男性。菌状息肉腫症により20年の治療歴があり、直近では2024/1月から抗CXCR4抗体であるモガムリズマブの投与が行われていた。胃癌の診断としては、LM, circ, type3, 60mm, T4a (SE), N2, M0, cstageⅢの診断であったが、術前PETCTにて胃全体にSUVの集積があり、病変がU領域まで達している可能性を否定できなかったことから胃全摘を施行する方針とした。入院後IVHを継続したが、皮膚病変に伴う慢性炎症によりCRP2-3程度であることもあり、mGPS=2, PNI=25前後, PreAlb=12前後の栄養状態は改善しなかった。NCD risk calculator 術死1.0%、手術関連死 6.5%、縫合不全 2.5%、肺炎 17.3%。2024年3月に開腹胃全摘+腸瘻造設術を施行した。術後より高炎症状態が遷延し、また皮膚病変の悪化もあり体動が困難で歩行不可、痰の喀出も困難な状態であった。POD3に炎症の原因検索のために施行

したCTでは吻合部から脾上極にかけての細かいairを伴った液体貯留があり、縫合不全の存在が示唆された。縫合不全の有無を確認するために吻合部造影を施行したところ、造影中にガストログラフィンの誤嚥があった。同日夜間に嘔吐があり、その後にCPAとなりICUへ移送。挿管の際には気管内に腸液様の液体が多量に流入している状態であった。ROSCが得られたものの、重度のARDSにより呼吸状態が改善せず、翌日夜に死亡した。

患者は術後に歩行はおろか座位を保持することも困難なほどADLが低下し、自分で痰を核出することもできない状態であった。他疾患を並存する患者に対する手術適応は慎重に検討するべきと考えられた。また吻合部造影は嘔吐・誤嚥の危険性があり、バリウムにて行うことを徹底することとした。

## 主催学会・研究会・セミナー

### 第45回 神奈川術後代謝栄養研究会

日 時：2024年1月8日（月・祝） 崎陽軒本店（同門会総会同日開催）  
主 題：教室における大学院研究の最前線  
一般演題：国立がん研究センター東病院  
　　武井 将伍 先生  
　　横浜市立大学附属市民総合医療センター  
　　前橋 学 先生  
　　横浜市立大学消化器・腫瘍外科学  
　　福岡 宏倫 先生  
特別講演：横浜市立大学外科治療学  
　　主任教授 斎藤 純 先生  
　　「心臓血管外科領域の臨床・教育とデータベース事業」

### 横浜敗血症セミナーXI

日 時：2024年1月22日（月） オンライン開催  
特別講演：東京大学大学院医学系研究科救急・集中治療医学  
　　教授 土井 研人 先生  
　　「敗血症 / 敗血症性DICに対する血液浄化療法」

### Gastroenterological Surgery Seminar

日 時：2024年1月26日（金） ハイブリッド開催  
講演1：静岡県立静岡がんセンター肝胆膵外科  
　　部長 杉浦 穎一 先生  
　　「消化器外科手術における最新の話題」  
講演2：名古屋大学大学院医学系研究科腫瘍外科学  
　　教授 江畑 智希 先生  
　　「胆道外科の臨床はどう変わったか？～免疫チェックポイント阻害薬の到来～」

### Biliary Tract Cancer Expert Symposium

日 時：2024年3月22日（金） ハイブリッド開催  
講演1：愛知県がんセンター消化器内科  
　　部長 原 和生 先生  
　　「がんゲノム時代の胆膵内視鏡医に求められる診療のトピックス」  
講演2：神奈川県立がんセンター消化器内科  
　　部長 上野 誠 先生  
　　「TOPAZ-1 レジメン～1年使ってわかったこと、困ったこと～」  
講演3：座長＆演者：横浜市立大学消化器・腫瘍外科学  
　　主任教授 遠藤 格 先生  
　　「承認1年を振り返って～アンケート結果から～」

### 第12回周術期合併症研究会

日 時：2024年6月3日（月） オンライン開催  
特別講演：東京医科大学茨城医療センター消化器外科  
　　主任教授 鈴木 修司 先生  
　　「非閉塞性腸間膜虚血症 (non-occlusive mesenteric ischemia ; NOMI) の診断と治療」

## HCC Expert Seminar

日 時：2024年6月24日（月） オンライン開催

講演1：近畿大学医学部消化器内科

特命准教授 上嶋 一臣 先生

「Cancer Freeを目指した肝細胞癌の集学的治療戦略」

講演2：京都大学大学院医学研究科肝胆脾・移植外科

教授 波多野悦朗 先生

「進行肝細胞癌～治癒に導くための集学的治療戦略～」

## 第13回神奈川外科・救急合同セミナー

日 時：2024年9月6日（金） ハイブリッド開催

特別講演：富山大学学術研究部医学系消化器・腫瘍・総合外科

教授 藤井 努 先生

「脾臓外科手術と今後の外科医の働き方について～合併症対策を含めて～」

## 第26回 横浜サージカルビデオフォーラム (LOOK & LEARN)

日 時：2024年9月9日（月） ハイブリッド開催

テーマ：「腹腔鏡下回盲部切除術～各施設における手技とこだわり～」

座長：横須賀共済病院外科

副部長 謙訪 宏和 先生

横浜市立大学消化器・腫瘍外科学講座

講師 小澤真由美 先生

コメンテーター：NTT東日本関東病院

外科医長 梶山 将士 先生

横浜市立大学附属市民総合医療センター消化器病センター病院

講師 謙訪 雄亮 先生

横浜市立みなと赤十字病院大腸外科

副部長 田 鍾寛 先生

一般演題：横須賀共済病院

前田 直紀 先生

横浜市立市民病院

浦島 哲大 先生

済生会横浜市南部病院

窪田硫富人 先生

横浜市立みなと赤十字病院

金 翠婉 先生

国立病院機構横浜医療センター

大石 裕佳 先生

レクチャー：座長：NTT東日本関東病院外科

医長 梶山 将士 先生

横浜市立大学消化器・腫瘍外科学講座

講師 小澤真由美 先生

「解剖から紐解く回盲部切除術における術野展開のポイント」

## Yokohama Surgical Oncology Forum

日 時：2024年11月14日（木） ハイブリッド開催

講演：兵庫医科大学消化器外科学講座肝胆脾外科

主任教授 廣野 誠子 先生

「膵癌の集学的治療戦略」